

いわて 復興 だより

がんばろう!岩手 つなごろう!岩手

第181号
令和4年1月号



三陸復興

平成23年3月11日に東日本大震災津波が発生しました。発災以来、国内外から多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切にし、復興のステージを更に前に進めていく岩手県の今を紹介します。

オープン 高田松原津波復興祈念公園全面オープン

陸前高田市
RIKUZENTAKATA

令和3年12月26日(日)、高田松原復興祈念公園の管理事務所が開所し、県と国、市が一体となって整備を進めてきた高田松原津波復興祈念公園(約130ヘクタール)が全面オープンしました。

開所式には、関係者や来賓約20名が出席し、テープカットで開所と全面オープンを祝いました。また、開所式の後、公園管理事務所内で、市民協働グループにより「市民協働イベント」が開かれ、公園の管理運営に参画する各団体が、自然観察会や花植え、地域の歴史、震災の事実と教訓を伝承する講演などを行いました。

同公園内には、国営追悼・祈念施設をはじめ、東日本大震災津波伝承館(いわてTSUNAMIメモリアル)、タピック45や奇跡の一本松などの震災遺構があり、震災の事実と教訓、防災について学ぶことができる施設となっています。改めて公園が、追悼・鎮魂の場、震災の伝承・復興の発信の場として後世まで引き継がれ、にぎわいの場としても末永く活用されていくことが期待されます。

■問い合わせ 岩手県県土整備部都市計画課

☎ 019-629-5890

高田松原復興祈念公園管理事務所

についてはこちら➡



テープカットの様子



公園管理事務所の外観

開催 沿岸各地で成人式開催

沿岸全域
COASTAL WIDE

1月10日の成人の日を迎え、沿岸各地で成人式が開催され、東日本大震災発生時に小学校3年生だった新成人たちは大人の門出を祝いました。

昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で多くの市町村が成人式を中止またはオンライン開催しましたが、今年は、2年ぶりに対面式で開催され、晴れ着やスーツに身を包んだ多くの新成人は、旧友との親交を深めていました。

各地の式典では、これまでお世話になった両親など周りの方々と故郷への感謝、大人としての自覚を胸に、亡くなった同級生や地域の方々へ復興への思いを馳せながら、未来への力強い決意を誓っていました。



成人式の様子(写真提供:陸前高田市)

受賞

県立山田高校と山田町がキャリア教育推進連携表彰全国優秀賞受賞

山田町
YAMADA

令和3年12月17日(金)、県立山田高校と山田町による教育プログラム「震災伝承とふるさと探究」が、文部科学省と経済産業省の第10回キャリア教育推進連携表彰の全国優秀賞に選ばれました。

「震災伝承とふるさと探究」では、山田高校が、山田町と締結した包括連携協定の下、過去の災害を記録した石碑などの調査研究や新聞記事を活用した震災学習、フィールドワークや語り部等への取材を通じた地域課題の発見と解決策の探究などに取り組み、多様で主体的な学びが評価され、受賞につながりました。

生徒たちは、学習を通じて郷土愛を育み、防災やまちづくりへの意識を高め、先人から受け継いだ震災の教訓を発信しており、「東日本大震災の影響で大きな被害を受けた山田町ですが、このような活動に積極的に参加することで、町を

活気づけていきたい。」と意気込んでいます。



語り部とともに石碑から教訓を読み解こうとする生徒

■問い合わせ 岩手県立山田高等学校
☎ 0193-82-2637

話題

県内魚市場で初競り実施

沿岸全域
COASTAL WIDE



初競りの様子(写真提供:宮古市)

令和4年1月4日(火)、沿岸各地でサケやマイワシ、サバ、マダラなどが初水揚げされ、宮古市魚市場や大船渡市魚市場などで初競りが行われました。

近年、秋サケやサンマなどの主要魚種の不漁に見舞われていますが、年頭の初競りの魚市場は活気に満ち、関係者は、魚市場の賑わいがまちの活性化にもつながるようにと今年一年の豊漁を願いました。

また、沿岸各地では、サケ・マス類の海面養殖事業やウニの蓄養事業などの新たな取組がスタートしており、こうした取組を通じた水産業の更なる発展に向け、期待の1年が始まりました。

■問い合わせ 岩手県農林水産部水産振興課
☎ 019-629-5812

世界へ、未来へ いわてTSUNAMIメモリアル

東日本大震災津波の事実と教訓を伝える施設「東日本大震災津波伝承館」(いわてTSUNAMI(つなみ)メモリアル)を紹介します。

令和3年12月21日(火)、東日本大震災津波伝承館では、インドネシアのバンダ・アチェ州で実施された「第17回アチェ津波記念週間(12月14日~21日)」で開催されたオンラインイベントに参加しました。

平成16年に発生し、インドネシアをはじめとするインド洋沿岸諸国に甚大な被害をもたらしたスマトラ沖大地震インド洋大津波から17年が経過しました。第17回アチェ津波記念週間は、バンダ・アチェ州の津波アーカイブセンターの主催で「インド洋大津波から学んだ教訓を生かす」などをテーマに実施されたものです。パネルセッションには、津波に関するアーカイブシステム担当者や研究者、学生等が参加し、日本からは、東日本大震災津波伝承館と東北大学災害科学国際研究所が、直接現地とオンラインで繋いで参加しました。

伝承館からは、東日本大震災津波伝承館の施設概要や企画展示、子どもたちへの防災学習、復興教育等の取組などを紹介し、また、アチェ津波博物館やハワイ太平洋津波博物館との津波の教訓の共有など、国際的な連携の重要性について説明しました。パネルセッションの参加者は、震災の事実と教訓の伝承が重要であることを再認識し、国際的な連携により一層取り組んでいくこととしました。

■問い合わせ 東日本大震災津波伝承館 ☎ 0192-47-4455



Empowering Lesson Learned from Indian Ocean Tsunami

The Panelists:

- Iman Gunarto (Kapala Bina Nasional RI)
- Sandiaga Uno (Menteri RI)
- Prof. Samsul Rizal (Rektor Universitas Syiah Kuala)
- M. Nasir Djamil (Kapala Hutan Aceh, Sumatera)
- Irijen Pol. Ahmad Haydar (Korwil Aceh)
- Muhammad Yusuf (Kapala Korpri Aceh)
- Sebastian Penmellen Borel (International Research Institute of Disaster Science, Tohoku University, Associate Professor)
- Akihiro Shibayama (International Research Institute of Disaster Science, Tohoku University, Associate Professor)
- Osamu Fujisawa (Deputy Director of Iwate Tsunami Memorial Museum)
- Alfi Rahman (Pembelajaran dari Pengalaman Lokal Masyarakat Simeulue Sebelah dari Tsunami 2004)
- Wisanu Sunandar (Responal CEO of ISS Aceh)

📍 @anri_bast

第17回アチェ津波記念週間のポスター

開催

水門・陸閘自動閉鎖システムの住民説明会開催

大船渡市
陸前高田市
OFUNATO
RIKUZENTAKATA

令和3年12月に、岩手県は、水門・陸閘の運用が開始することに伴い、大船渡市と陸前高田市の3か所で、地域住民や地元漁業関係者を対象に説明会を開催しました。



説明会の様子

県では、東日本大震災津波において、水門・陸閘の閉鎖作業に関わり多くの消防団員が犠牲となった事実を踏まえ、操作員の安全の確保や津波から県民の生命と財産を守るため、衛星回線を活用し門扉の閉鎖などを自動で行う「水門・陸閘自動閉鎖システム」の整備を進めてきました。

住民の今後の避難行動に生かしていくため、説明会の参加者は、システムの概要の説明や水門・陸閘の閉鎖の様子の見学、非常扉の開閉体験などを行いました。

岩手県では、今後も災害に強いまちづくりに取り組んでまいります。

■問い合わせ 岩手県沿岸広域振興局水産部
大船渡水産振興センター漁港管理課
☎ 0192-22-9386

開催

令和3年度第3回わいわいトーク「復興支援団体の新たな挑戦」開催

盛岡市
MORIOKA

令和3年12月22日(水)、盛岡市の県公会堂地下のいわて若者カフェで令和3年度第3回わいわいトーク「復興支援団体の新たな挑戦」を開催し、インターネットで配信しました。

今回出演した県立大学の学生団体「復興 girls & boys*」は、東日本大震災津波の復興支援ボランティア活動に取り組んでおり、この日は飲料メーカーと協働し、川井赤しそ、岩泉ほおずき等の三陸地域の特産品を使用したオリジナルのノンアルコールカクテル「モクテル」の開発・販売に取り組んだことについて報告がありました。モクテルは現在、盛岡市内の飲食店などで販売されています。

出演した学生は、三陸地域の特産品の販売会や商品開発などこれまでの活動への熱い思いを語り、今後も商品開発や販売会へのチャレンジを通じて、復興支援を続けていきます。



わいわいトークの様子

■問い合わせ 岩手県環境生活部若者女性協働推進室
☎ 019-629-6288

わいわいトークについてはこちら➡



さんりくイベント情報

東京都/青森県/岩手県/宮城県/福島県
TOKYO / 4 prefectures in Tohoku

東日本大震災風化防止イベント～さらなる復興に向けて 2022～

東京都と東北4県(青森県、岩手県、宮城県、福島県)は、「さらなる復興に向けて2022」として、「ささえる、つたえる、つながる。これからも。」をキャッチフレーズに「被災地の今」と「東北の魅力」を発信し、「支援の継続」を呼びかけるイベントを開催しています。

●問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課 ☎ 019-629-6945

オンラインイベント

「被災地の今」と「東北の魅力」を発信する特設サイトを開設



主なコンテンツ等

- 4県知事+都知事からのメッセージ
- 東北ゆかりの著名人からのメッセージ【岩手県出演者】
いわて暮らしアンバサダー
芸人 天津木村さん
格闘家 扇久保博正さん 他
- 復興にまつわる食のストーリーや被災地の「今」を感じられるコンテンツ など

開催期間

令和4年1月21日(金)から
令和4年3月21日(月)まで

オンライン語り部

東日本大震災の“あの日”の出来事を風化させないため、そして、東北4県の想いを紡ぎ“つたえる”ため、オンラインによる語り部プログラムを期間限定で提供します。

2/7月
より
申込開始!

実施団体

- いのちをつなぐ未来館(岩手県)
3月6日(日)開催
- 3.11みらいサポート(宮城県)
2月26日(土)開催
- 富岡町3・11を語る会(福島県)
3月5日(土)開催

※詳細は特設サイトをご覧ください。

ハッシュタグキャンペーン

東北4県の食材やご当地料理など元気になる東北の食に #東北チャージメン

をつけて、写真をInstagramに投稿しましょう!!

投稿いただいたフォロワーの方から抽選で100名様に各県の県産品や特産品をプレゼントします!東北の「いいね」を全国の人にシェアしましょう。

開催期間

令和4年2月10日(木)から
令和4年3月11日(金)まで

参加方法

- 1 ▶ 東日本大震災風化防止イベントのInstagram公式アカウント(@tohoku.fukkou.ouen)をフォロー
- 2 ▶ #東北チャージメン を付けて、東北4県の食材や、それらを使った料理写真やメニュー写真を投稿 ※「#」は半角です

賞品

東北4県の県産品や特産品を100名様にプレゼントします。

※新型コロナウイルス感染症の影響等により、中止や内容が変更となる場合があります。予め、問い合わせ先にご確認ください。



3.11 仮設住宅体験館

仮設住宅の見学・宿泊体験を通じて震災津波の教訓を伝承します。



陸前高田市の3.11仮設住宅体験館では、東日本大震災津波後に市が建設した応急仮設住宅を見学したり、宿泊体験をすることができます。

移設された2棟8戸の応急仮設住宅には見学用と体験用にそれぞれ1～3DKの部屋があり、見学用の部屋では、当時の様子として、壁が薄く隣の物音が聞こえることや床がキンキンに冷えることなどの経験談が壁に展示され、震災後の暮らしの様子を感じたり、実際に仮設住宅で生活していたガイドによる体験談を聞くことができます。

3.11 仮設住宅体験

開催期間 通年 **料金(税込)** 見学 無料 宿泊体験 11,550円～
※宿泊体験料の他に、人数分のガイドツアー代と寝具料金が追加となります。
※オプションで、仮設住宅に住んでいた語り部のお話を聞くことができます(8,000円～、所要時間:約60分)。

※自由見学の予約は前日まで、語り部・宿泊体験の予約は、7日前までにお問い合わせください。

■見学・宿泊・施設に関するお問い合わせはこちら

「3.11仮設住宅体験館」

☎ 090-2114-9038

または「道の駅高田松原」

☎ 0192-22-8411



展示の様子(写真提供:3.11仮設住宅体験館)



陸前高田市★

いわてさんりくびと

連載「いわてさんりくびと」では、被災地・三陸の復興に向け、熱い想いをもち、活躍する方々を紹介します。第127回は上之原良美さんをご紹介します。



～ 宮古たのしめます！ ～

PROFILE ————千葉県千葉市出身。都内の大学を卒業後、令和元年に宮古市地域おこし協力隊に着任し、千葉県から宮古市に移住。空き家・空き店舗の活用事業に取り組みながら、フォトブック「oAgence (オアゲンセ)」を制作。Instagramに「みやこえポエム」のタイトルで、日々気づいたことなどを投稿している。

宮古市の空き家対策

千葉県で生まれ育った上之原良美さんが宮古市と出会ったのは、「被災地の子どもたちとふれ合い、笑顔にしよう」と平成23年から始まった「僕らの夏休みプロジェクト」への参加でした。「個人的にも宮古市に行くようになり、宮古市の雰囲気や愛着を持つ方々に段々と惹かれていきました」と、上之原さんは言います。

大学を卒業した令和元年に宮古市地域おこし協力隊に着任しました。空き家・空き店舗の活用事業は未知の分野でしたが、未知だからこそこの気づきがありました。「相談者の多くが何から手を付けたらよいかわからず困っていることに気づき、『空き家サポートブック』を制作しました。空き家に関心を持つきっかけに

なってほしいです」と上之原さんは語ります。

「好き」を発信したい

その後、上之原さんは、今営業しているお店の手助けも空き家対策になると考え、フォトブック「オアゲンセ」を制作しました。また、市のホームページで空き家情報を掲載している「空き家バンク」コーナーで、物件の細部やこだわりも見てもらえるように、写真だけでなく動画も掲載する取組を始めています。

上之原さんは、これからも宮古市で暮らしたいと考えています。「SNSに『みやこえポエム』という気づいたことなどを投稿しています。ないものねだりではなく、目の前にあるものや『好き』を発信していくことで宮古市の賑わいに繋がれば」と上之原さんは未来を見据えています。

岩手県の被害状況

令和3年12月31日現在

- 人的被害 死者：5,145人(余震、震災関連死を含む)
行方不明者：1,110人
- 建物被害(住家のみ、全半壊)26,079棟
被害状況等の詳細／義援金・寄附金の募集等

いわて防災情報ポータル

検索

皆様のご支援、ありがとうございます

令和3年12月31日現在

- 義援金受付状況 約188億1,101万円(98,444件)
- 寄附金受付状況 約203億2,436万円(14,036件)
- いわての学び希望基金(※)受付状況 約104億4,637万円(26,305件)
※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。



いわて震災津波アーカイブ～希望～

約24万点の資料を検索・閲覧できます。

いわて震災津波アーカイブ

検索



いわて復興だより 第181号

令和4年1月31日発行 企画・発行／岩手県復興防災部復興推進課 ☎019-629-6945 編集・印刷／永代印刷株式会社